

令和5年7月21日



大豆情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の大豆は、6月からの断続的な降雨により播種作業が遅れている地区もあります。

これから播種する場合は土壌水分や播種後の天候に留意して、確実に出芽・生育するように気をつけましょう。

1 遅播きでの播種のポイント

- 土壌水分が適度になったら早急に播きましょう。
- うね立て播種を基本とします。
- 生育量を確保するため7月中旬播きから 播種量を増やします(こよみ参照)。
※播種前に播種量の設定を確認しましょう。
- 7月中旬播きから基肥を窒素成分で2kg/10a 施用しましょう。

【冠水等で播き直しが必要な判断目安】…健全株が7割以下と見込まれる場合

- 播種後出芽までに長時間冠水した場合、出芽の可能性が低くなります。また、冠水により株に泥が付着したままだと、枯死する危険性が高くなります。

2 播種後の天気予報に応じて播種の深さを調整

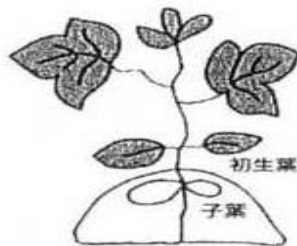
- 土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整しましょう。
- 適度な土壌水分がある場合、播種の深さは3cm 程度を基本とします。
- 土壌が乾き、天気予報でしばらく降雨がない場合は、基準よりやや深く(5～6cm) 播種し、鎮圧するように設定しましょう。
- 播種後1日以内に大雨の予報がある場合、播種は控えましょう。

3 排水対策

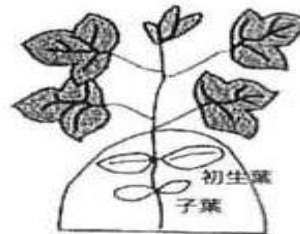
- 周囲溝と畝立て溝を排水溝とつなぎます。
- 麦わらが排水溝に詰まっていないか確認し、詰まっている場合は早急に取り除き、水が流れるようにしましょう。

4. 中耕・培土

中耕・培土は、雑草対策や倒伏防止、排水対策、不定根の発生促進など効果が期待でき、多収栽培のためには、重要な作業です。下記の表を目安に実施してください。なお、ほ場の表面排水を促すために中耕・培土後の明きよの整備を行いましょう。



1回目



2回目

1回目	本葉3葉期に子葉節まで培土（播種後約2週間目頃）。
2回目	本葉5葉期に初生葉節まで培土（播種後約3週間目頃）。

【中耕・培土の目安】※雑草の多いほ場は、中耕をできる限り早めましょう。

5. 雑草対策

播種時に除草剤散布が出来なかったほ場で中耕・培土でも対応できなかった雑草は、生育期除草剤で防除してください。

雑草の種類によって除草剤の効果が異なります。種類を確認して防除を行いましょう。

除草剤名	対象雑草	処理時期	使用量	希釈水量 /10a
ポルト フロアブル	一年生イネ科雑草 スズメノカタビラを除く	イネ科雑草 3～10葉期 但し、収穫30日前まで	200～ 300ml	50～ 100ℓ
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 イネ科を除く	大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	100～ 150ml	100ℓ
アタック ショット 乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) 但し、収穫45日前まで	30～ 50ml	100ℓ

※ 周辺に水田がある場合は、水稻にかからないように注意してください。

※ アタックショット乳剤は散布後、一過性の薬害（褐変、縮葉等）が生じますが、次第に目立たなくなります。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ①散布前に必ずラベルを確認
- ②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース）を洗浄
- ④防除履歴の正確な記帳

